伊勢新聞　2012年（平成24年）9月19日（水曜日）10面

伊勢の今昔、違い発見

皇学館大や市が共同制作　アプリ使って学生ら散策

【伊勢】県と国立情報学研究所連想情報学研究開発センターが共同研究し、皇学館大や市教育委員会と連携して制作したタブレット型端末用アプリ「伊勢ぶらり」を活用したワークショップが十八日、同市で実施された。同大文学部国文学科の学生十人が参加し、アプリ対応のｉｐａｄやスマートフォン（多機能携帯電話）を手に伊勢市駅前から市役所までを散策して、今と昔の町の違いを学んだ。

同アプリは、画面に市内の絵地図を表示し、ＧＰＳ（衛星利用測位システム）によって現在地が絵地図のどこに当たるかを示す。利用者が歩くと合わせて地図上の現在地の印も動いていく。名所の絵はがきや文化施設の情報も閲覧できる。

絵地図は五種類で、江戸時代の万延元（一八六〇）年、大正六年、同八年、昭和十五年の各年の古地図と、ことし改訂した市制作の絵地図を取り込んだ。

同大二年の岩上奈々さん（一九）は、実際の景色と古い絵地図を見比べて、「こんな所に監獄があったんだ」と意外な発見に驚き、「地元でも知らない場所が多い。町にもっと関心が持てる」と、感想を述べていた。

県などはことし秋、学生らを案内役に、同アプリを使った町歩きイベントを予定している。同アプリは、ネットで無料配信されている。

端末を見ながら町歩きをする参加者ら＝伊勢市吹上の伊勢市駅前で